

次の世代を担う子どもたちに私たち大人は何をのこせるのでしょうか…

仲嶺 真弓

6月は、「次の世代を担う子どもたちに大人の私たちは何をのこせるのかな」と考える機会が多くありました。その機会の一つを7月号の巻頭に書くことにします。

ある日の夕方、園庭周りの花壇の草刈りをしていました。あきらかにクラブ活動を終えた帰宅途中の中学生男子が、「こんにちは。」と私に声をかけてくれました。しかも、その声を一度聞き逃してしまった私に、諦めずに再度の声掛け。なんとも嬉しい気持ちになりました。その後も散歩中の地域の方が何人も、「いつもたくさんのきれいな花。楽しませてもらっています。」「花壇が広いから大変ですね。」「これはミント？うちのミントの香りとは少しちがうねえ」などなど、地域の人たちを身近に感じることができた夕暮れ時でした。

世間では子どもの声がうるさいからと保育園や行政に苦情が入るなど関係性も対立しているような話をよく聞きます。けれど、つばさ共同保育園では子どものことに関する苦情はありません。つばさ共同保育園が設立して5年目。地域の方にも受け入れられてきていることを肌で感じます。開園当初から近隣の方には折に触れて挨拶周りを行っています。挨拶に行くたびに感じることは、子どもが育つ場として理解し、暖かく見守っていただけているということを何気ない会話からも聞き取れます。地域の方から保育園に入った数件の苦情は、大人のマナーに対してのことが全てです。

●少しの間だからと駐車場でアイドリングしていませんか？ これからの暑い季節、赤ちゃんがいる方は遠慮なく事務室に声かけてください。登園時の準備の間は職員が“母代行”承ります。

●駐車場ではないところに車を停めていませんか？ 駐車場前は曲がり角。特に雨の日は見通しが悪く、出会い頭の事故になりかねないので駐車場以外の場所は駐車禁止です。込み合っているときは園庭にとめてください

●夜の懇談会後の降園時、子どもが騒いでいてもその横で立ち話を続けていませんか？

これに関する苦情は一度もありませんが、夜は騒がないということはマナーの一つだと思います。職員はいつもドキドキしながら子どもたちに声をかけていますが、保護者の意識はどうですか？

先日、カンガルーの会総会があり、「よかったら職員ものぞきにきて」という声をかけてもらったので参加させてもらいました。そのときに交わされていた会話の一つに、「保護者クラスレクは日祝日に保育園の場所を利用できない？」という話が聞かれました。確かに保護者クラスレクで休日に保育園を使わせてほしいという依頼は聞かれました。そのたびに個々にお話しもしてきたのですが、説明不足もあったのか間違った情報が保護者間で流れていたようなので訂正させてもらいました。総会の場にいない方も多かったので、訂正した内容を総会で話ししたことをそのままお伝えします。

「保護者クラスレクは日祝できないということではありません。

ただ、基本的につばさ共同保育園は日曜・祝日は休み。(図書館で言えば、休館日です。唯一、静かな時間を過ごせる日です)開園時間は、7時から20時までです。開園時間以外には利用してはいけないということではなく、利用する場合は地域の方に配慮する気持ちは持ってほしいと思います。保育園だから騒がしくてもいい、うるさくて当たり前ではないということを保育園利用している人、一人ひとりが忘れてはいけないことだと思います。」

最後に、文頭にも書いた「次の世代を担う子どもたちに大人の私たちは何をのこせるのか」という問いに対して私が思うことは、何十年後も“保育園”という場所が存続してほしいということです。このつばさが丘というまだ新しい開発途上の町の何十年後も、今と変わらず子どもたちの笑い声が絶えない地域であってほしいと願います。そのために地域の方、卒園したOB保護者とも、日々何気ない会話を重ねながら、子どもたちのことを考え合えることができるこの場所を大切にしたいと思っています。

みなさんは、どう考えますか？

